

2015「神戸の集い」私の感想

2015年2月 16日

氏名(会員番号)	今石 佳太 (066)	参加回数	回目
参加した場所 (番号に○印)	3 松山さん・今石さんとの懇親会 4 3. 17慰霊式典		
印象に残ったこと	芦屋市市長室の今石でございます。平素は遠隔の地から皆様方の御活躍に触発されております。また、毎年この時期に皆様方にお越しいただけることに感謝いたしております。 さて、阪神・淡路大震災から早いもので20年が経過いたしました。あの当時の様子は今でも鮮明に記憶に残っておりますし、生涯記憶が無くなることはないものと思います。 とは言え、組織としましては震災を職員として経験した者が4割程度になっていることに強い危惧を覚えていたところでした。 節目と言う表現が被災された方にとりまして如何かという議論はさておき、昨年の4月から1年間をかけて職員の資質向上と災害の継承に取り組んでまいりました。 これは、地域の皆様においてもご協力を得ながら、また同時に学校防災についても例年以上に防災キャンプを催したりするなど取り組んだところです。 職員には、体験を話すのではなく自分達で考え、課題を再認識させたうえでOB職員の協力なども得たところです。 先に体験談を語る取組を行わなかったのは、聞いたことは忘れやすいことや当時とは社会制度や法的にも大きく変わり、当時の苦労が今では当たり前に出て、その分新たな問題があるとの認識からの理由によるものです。 現在、1年間の継承作業の纏めに取り組んでおりますので、機会がございましたらお伝えできればと考えております。 さて、神戸の追悼式に関しては、あまりにも人が多く、人によっては年末のルミナリエより混雑したこと、また宿泊先のホテル近辺では平日の夜明けであったのが、あの地域に立ち入ると違った世界が広がっていたという話も聞いております。 芦屋市では、県の追悼式の後に市の追悼式を執り行い、翌18日は未来に向けての取組として30代の親子をターゲットに市の中心部にあるホールや市民センター、前面道路の封鎖による防災訓練などを行いました。各種団体の取組の披露や朗読劇、群馬大学の片田教授の防災講演会、それに東日本のパートナーである石巻市から市長、商工次長観光協会や商工会の会長にもお越しいただき、支援のための物産展を開催したところです。幸い好天にも恵まれ用意したお酒100本、石巻焼きそば、牡蠣汁、各種の名産品などが飛ぶように売れ、950キロ離れた芦屋市民でも東日本の被害について同じ被災地として決して忘れてはいないことを感じていただけたのではないかと考えています。 また、当日、福島県いわき市の高校生のフラガールにも市の事業に参加いただき、寒い屋外ステージでアンコールも含めて4曲も舞を披露していただきました。 まもなく震災強化のための年度も終わろうとしています。防災と言うのは事業ではなく我々が生きていく上で重要な部分を持ったものだと思っています。 災害は、また来るでしょうし、被害も出るかも知れませんが、明日かも知れないその日の為に出来ることは精一杯やっていきたいと思っています。一人一人は微力ですが無力ではないことを信じて。 ぜひ、皆様とお会いして一献傾けながらお話しできる日がありますことを望んでおります。		